

令和四年の“今年の漢字”「戦」についての考察

令和五年一月十七日

森田晃司

日本漢字能力検定協会によると、昨年、恒例の“今年の漢字”に選ばれたのは、応募総数二十万票余りの内の4.85%を占めた「戦」でした。

ウクライナ戦争、安倍元総理の暗殺など殺伐とした年でしたが、世界一の“非戦国家”日本の国民はどんな思いで「戦」を選んだのでしょうか。

日本人にとって「戦」は何を意味するのかを考察してみます。

1. 漢字能力鑑定協会への応募で二位以下を占めた上位の漢字は下記の通りです。 安、楽、高、争、命、悲、新、変、和

現状を悲しむ思いと変化への期待とが交錯している印象を受けます。

2. 第二次大戦後の占領軍は、日本の歴史、文化、社会の慣習などを否定する国際法違反の大罪を犯しています。その所業の数々は枚挙に暇がありませんが、すぐ思いつく一つが“教科書の黒塗り”です。占領軍のお気に召さないものは全て黒塗りにされましたが、戦闘機、戦車、戦艦などの文字は真っ先に消されたそうです。

大日本帝国憲法が否定され新憲法を押し付けられましたが、その九条

には、“戦力はこれを保持しない、国の交戦権はこれを認めない”と明記されている世界でも類例のない憲法です。

3. 日本の食料自給率は 37%、穀物自給率は 28%に過ぎません。戦後の日米両政府の国策の結果です。日本政府は未だに米の減反を奨励しています。自給率向上のために奮励努力しておられる鈴木巨弘東大教授は“戦わねば自給率は改善できない”と云っておられますが、日本は戦っているのでしょうか。

エネルギーの自給率は 12%です。せっかく世界に冠たる原発技術を持ちながら宝の持ち腐れです。技術を受け継ぐ若者が育たず、まさに腐れかかっています。効率の悪い太陽光や風力を増やして美しい自然が無残に破壊されています。

メジャーに頼らない、化石燃料の独自確保を目指して奮闘した田中元総理は、そのせいか、政治生命を絶たれました。日本はエネルギー確保のために戦っているのでしょうか。

国民の生命財産を守る、領土を守るという大切な安全保障は日米安保に頼りきりです。自衛隊独自では運転できないとも囁かれるソフトの組み込まれた米国産の軍備が主力です。

吉田茂、その弟子の佐藤栄作、宮澤喜一などは米国の一部勢力から核武装を薦められて断固拒絶したとも伝えられています。日本に自主独立国家を目指して戦う気概はあるのでしょうか。

当初、ドイツ向けを想定していた原爆開発は、紆余曲折を経て広島・長崎に落とされました。ドイツ、日本の軍事施設が相次いで壊滅して軍事目標を失った後、1944年9月のルーズベルト・チャーチル会談で、原爆開発の継続と“日本人”を目標とすることを確認した“ハイドパーク覚書”が保存されています。広島原爆記念館に写しが展示されていますが、against the Japanese をわざわざ、“日本人”ではなく、“日本”と訳して、焦点をぼかしています。日本の反核団体は本気で戦っているのでしょうか。

インド独立の英雄は日本ではマハトマ・ガンジーと教えられていますが、インドではチャンドラ・ボースも英雄と並び称されています。

ボースは日本軍の支援を受けて「インド国民軍」を組織し、日本軍と共にインパール作戦を戦い、その後、事故死していますが、彼らの独立への戦いがインドでは感謝され、高く評価されています。

静と動の両氏が、インドでは、独立闘争の英雄と並び称されているのです。そもそも、“非暴力、不服従”のガンジーは英国と戦っていなかったのでしょうか。

4. 国際世論調査の発表によると、「祖国のために戦うか」との設問に、戦うとの回答は日本では11%で、調査した64か国中では最低だそうです。

祖国愛の強い日本人ですが、武器を取って戦う覚悟の人は少ないようです。

日本の領土、企業、人材が外国資本に買われています。FEZの侵犯は日常茶飯事になっています。日本人は沈黙を続けています。

今やあらゆる分野で戦う“超限戦”は常識ですが、日本はそれに対して戦う準備と覚悟あるのでしょうか。

グローバリズムの宣伝に騙されて、外国資本の進出の本質を見失っているのでしょうか。

5. 参考：

米国では民間で保有されている銃の総数は4億から5億丁と推定されています。年間の銃による犠牲者数は数万人に上ります。日本とは違う社会です。

欧米で流布している Plandemic（コロナは人工的、計画的に作られた

感染症という意味)という言葉は日本では知られていません。

世界的に顕著になってきている超過死亡の急増（ワクチンが犯人と疑われている）も日本では話題になりません。何かを恐れているのでしょうか。

安倍元総理の暗殺事件も真相解明を求める動きは皆無です。何故、日本中が沈黙しているのでしょうか。

半導体競争ではなぜ日本は敗れたのでしょうか。不戦敗でしょうか。今度は勝てるのか？

世界をリードしていた日本の原発技術も苦境にあるようです。東芝、日立、三菱重工いずれも苦しそうです。今度は、原発の新技术を日米共同で開発するそうです。米国に成果を持っていかれるのでしょうか。

トヨタの PHV 技術は群を抜いていて欧米各社とも歯が立たないそうです。しかし、トヨタつぶしが眼目とも囁かれる EV 化が強引に推し進められています。日本の自動車産業も敗北するのでしょうか。戦う方法はあるのでしょうか。

30年間、経済停滞が続いています。一人当たりのGDPランキングでは、世界2位から30位近くまで後退しています。日本は戦ってきたのでしょうか。それとも不戦敗でしょうか。

スポーツの国際試合では盛り上がります。これは愛国心と闘争本能のガス抜きでしょうか。

以上